

2023年3月期 | 第109期
決算説明会



2023年5月19日
フタバ産業株式会社



FUTABA



1. 2023年3月期 決算概況

2. 2024年3月期 通期業績予想

3. 配当、設備投資及び有利子負債

4. 中期経営計画の進捗状況等

単位：百万円

	2023年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高	708,072	572,118	+135,954	+23.8%
営業利益	7,681 (1.1%)	6,115 (1.1%)	+1,565	+25.6%
経常利益	7,768 (1.1%)	7,807 (1.4%)	▲39	▲0.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	※10,576 (1.5%)	3,307 (0.6%)	+7,268	+219.8%
為替レート (1ドル)	135.5 円	112.4 円	23.1円の円安	

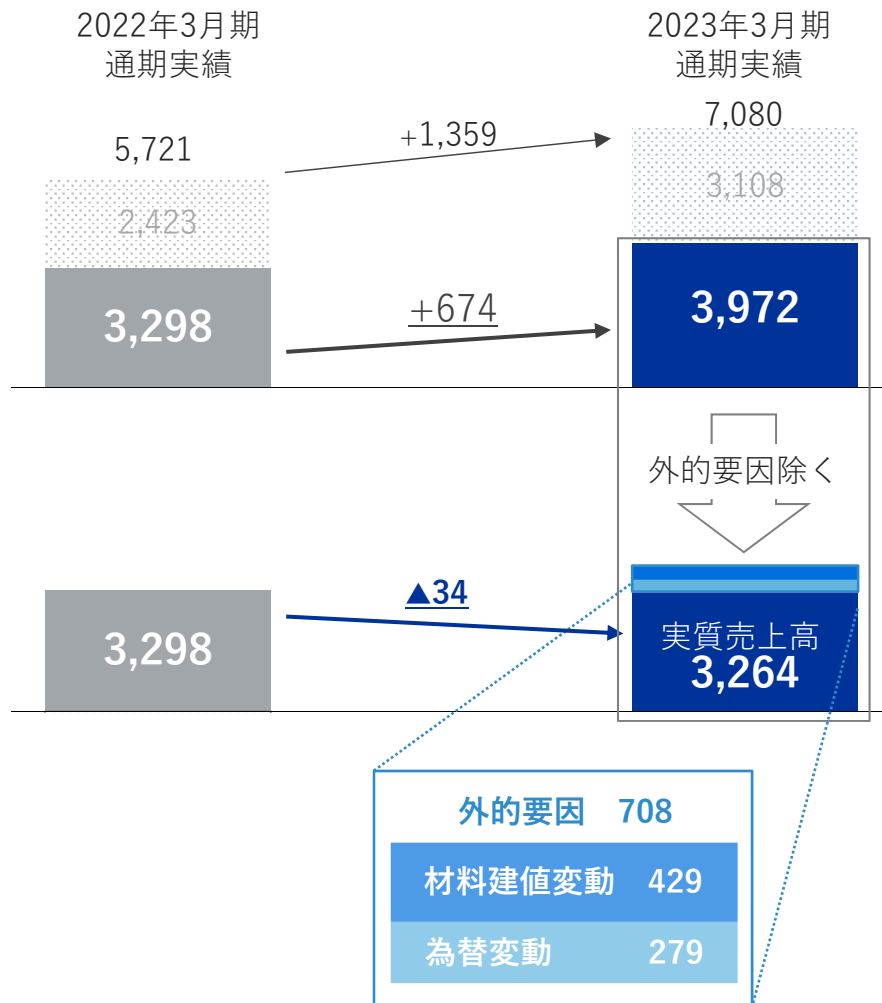
() 内は売上高比率を表示

※当期純利益には繰延税金資産計上に伴う法人税等調整額+60億円を含む

単位：百万円

	2023年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高 [支給品除く]	397,225	329,866	+67,359	+20.4%
営業利益	7,681 (1.9%)	6,115 (1.9%)	+1,565	+25.6%
経常利益	7,768 (2.0%)	7,807 (2.4%)	▲39	▲0.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	10,576 (2.7%)	3,307 (1.0%)	+7,268	+219.8%
() 内は売上高比率を表示				
為替レート (1ドル)	135.5 円	112.4 円	23.1円の円安	

◆ 売上高 ■ 売上高(支給品除く) 単位: 億円
▨ 支給品金額



- ・ 売上高は支給品込みで +1,359億円の増収
- ・ 支給品除く売上高は、+674億円の増収
- ・ 材料建値変動、為替変動影響を除くと
実質売上高は、▲34億円 (▲1.0%)の減収

- ・ 支給品とは
得意先から有償支給される触媒等の部品
支給品を含む製品の売価には、支給品額が含まれており、利益影響はない
- ・ 材料建値変動とは
市況の変動により、材料の仕入れ単価と
売価の内材料費分が同額変動すること。
売上と原価が同額変動するので、利益影響はない
- ・ 為替変動影響とは
海外子会社の財務数値を円換算する際、
前期と当期の為替レートの差分 売上等が変動すること

セグメント別売上高と営業利益 支給品除く

単位：百万円

		2023年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	増減	増減率
日 本	売上高 [支給品除く]	191,772	162,263	+29,508	+18.2%
	営業利益	3,056 (1.6%)	191 (0.1%)	+2,865	—
北 米	売上高 [支給品除く]	94,000	67,087	+26,912	+40.1%
	営業利益	▲739 (▲0.8%)	▲675 (▲1.0%)	▲64	—
欧 州	売上高 [支給品除く]	33,263	28,523	+4,739	+16.6%
	営業利益	975 (2.9%)	712 (2.5%)	+262	+36.8%
中 国	売上高 [支給品除く]	72,640	73,174	▲534	▲0.7%
	営業利益	2,626 (3.6%)	4,600 (6.3%)	▲1,973	▲42.9%
アジア	売上高 [支給品除く]	16,208	13,259	+2,949	+22.2%
	営業利益	1,502 (9.4%)	872 (6.6%)	+629	+72.2%
連結調整	売上高	▲10,659	▲14,442	+3,783	
	営業利益	259	414	▲154	
合 計	売上高 [支給品除く]	397,225	329,866	+67,359	+20.4%
	営業利益	7,681 (1.9%)	6,115 (1.9%)	+1,565	+25.6%

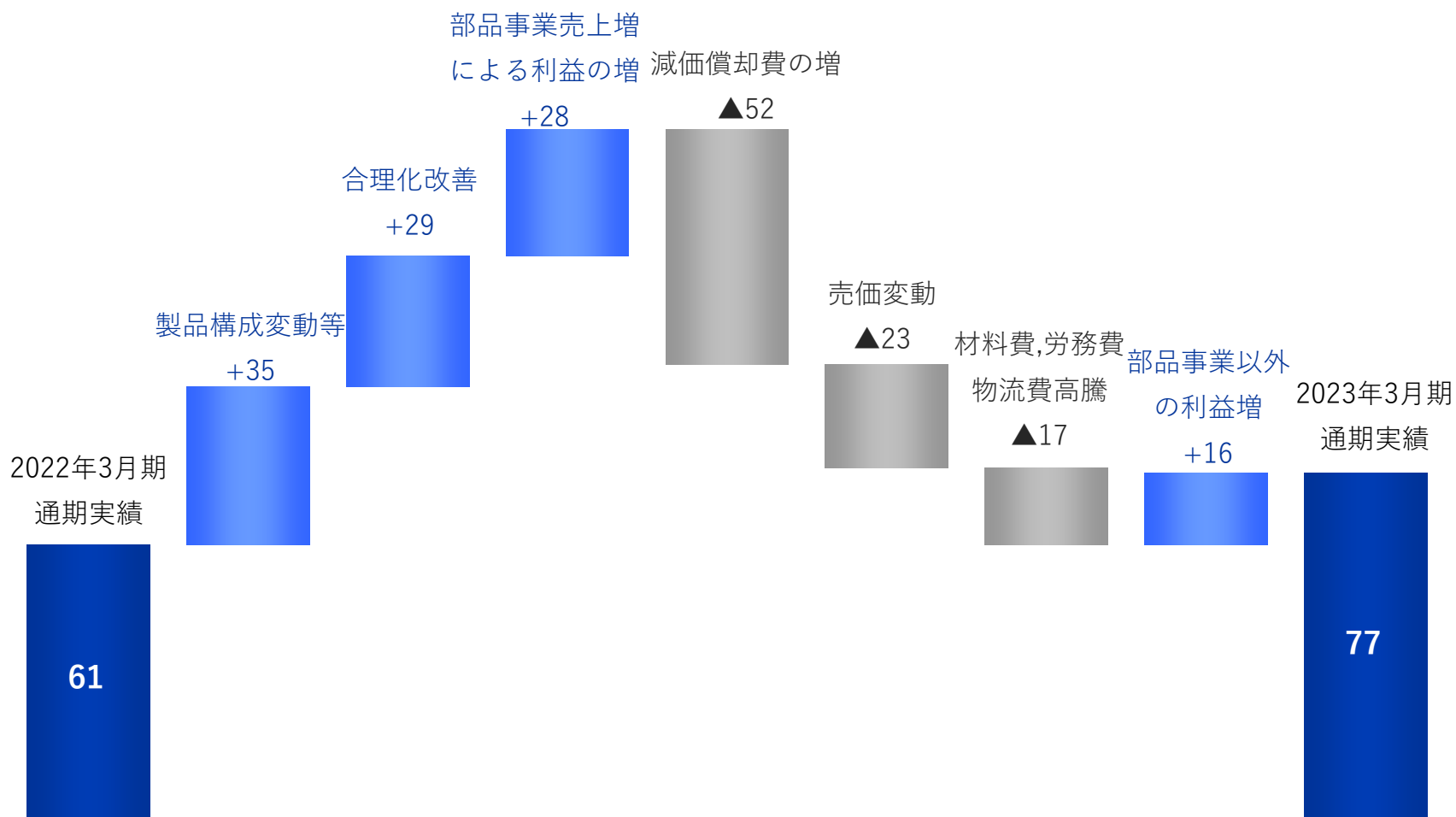
() 内は売上高比率を表示

営業利益の増減分析

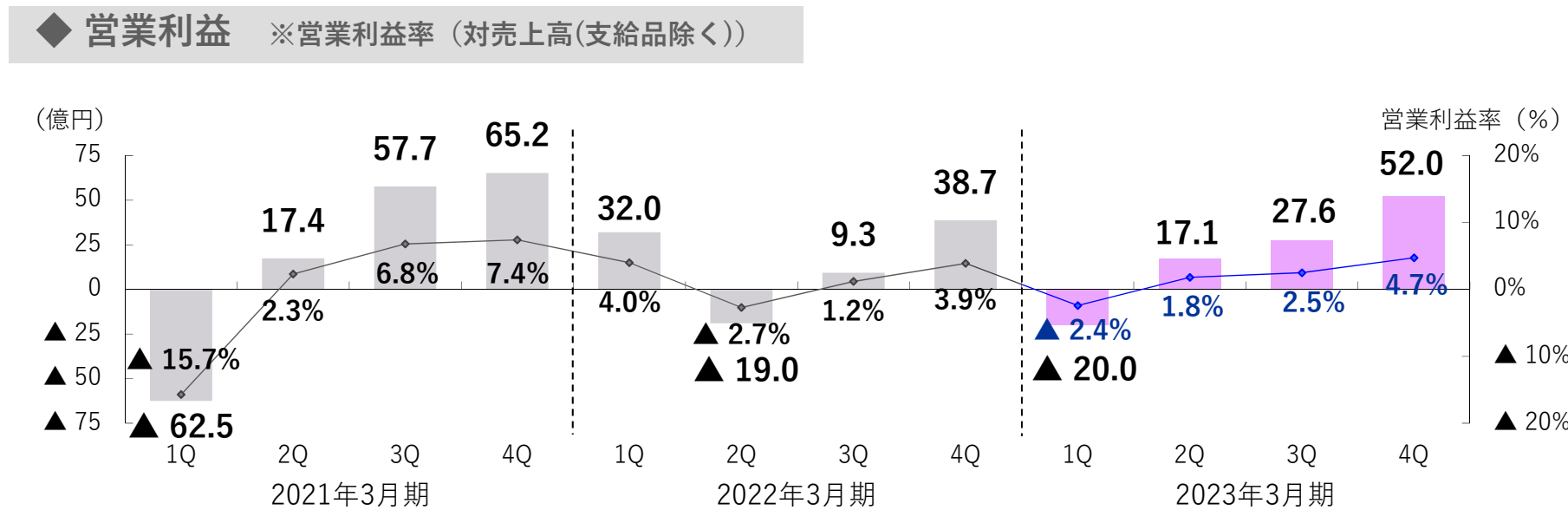
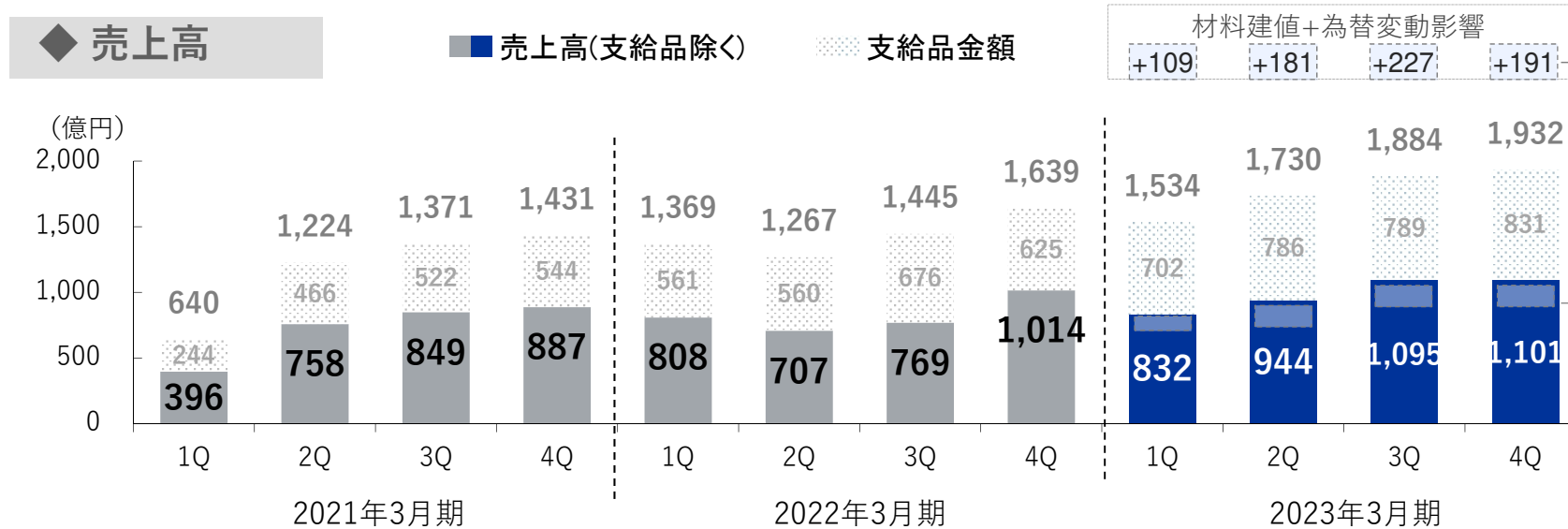
営業利益の増減 **+16億円** (61億円 → 77億円)

単位：億円

■ 増益要因
■ 減益要因



売上高と営業利益の四半期推移



得意先別売上高

9

() 内は売上高比率 単位：億円

	2023年3月期 通期実績		2022年3月期 通期実績		増減	増減率
※1トヨタグループ	5,448	(76.9%)	4,072	(71.2%)	+1,375	+33.8%
スズキ	738	(10.4%)	772	(13.5%)	▲33	▲4.4%
三菱自動車	243	(3.4%)	259	(4.5%)	▲15	▲6.0%
本田技研	101	(1.4%)	101	(1.8%)	+0	+0.3%
三菱ふそう	91	(1.3%)	69	(1.2%)	+21	+31.2%
※2日産グループ	78	(1.1%)	58	(1.0%)	+19	+33.6%
富士フイルムBI	11	(0.2%)	24	(0.4%)	▲13	▲55.7%
その他	368	(5.3%)	362	(6.4%)	+5	+1.6%
合計	7,080	(100.0%)	5,721	(100.0%)	+1,359	+23.8%

※1 トヨタグループには、ダイハツ、日野自動車等を含む

※2 日産グループには、日産車体を含む

1. 2023年3月期 決算概況

2. 2024年3月期 通期業績予想

3. 配当、設備投資及び有利子負債

4. 中期経営計画の進捗状況等

通期業績予想

単位：億円

	2024年3月期 通期予想	2023年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高	7,500	7,080	+419	+5.9%
営業利益	90 (1.2%)	76 (1.1%)	+13	+17.2%
経常利益	80 (1.1%)	77 (1.1%)	+2	+3.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55 (0.7%)	105 (1.5%)	※ ▲50	▲48.0%
為替レート (1ドル)	130.0 円	135.5 円		

() 内は売上高比率を表示

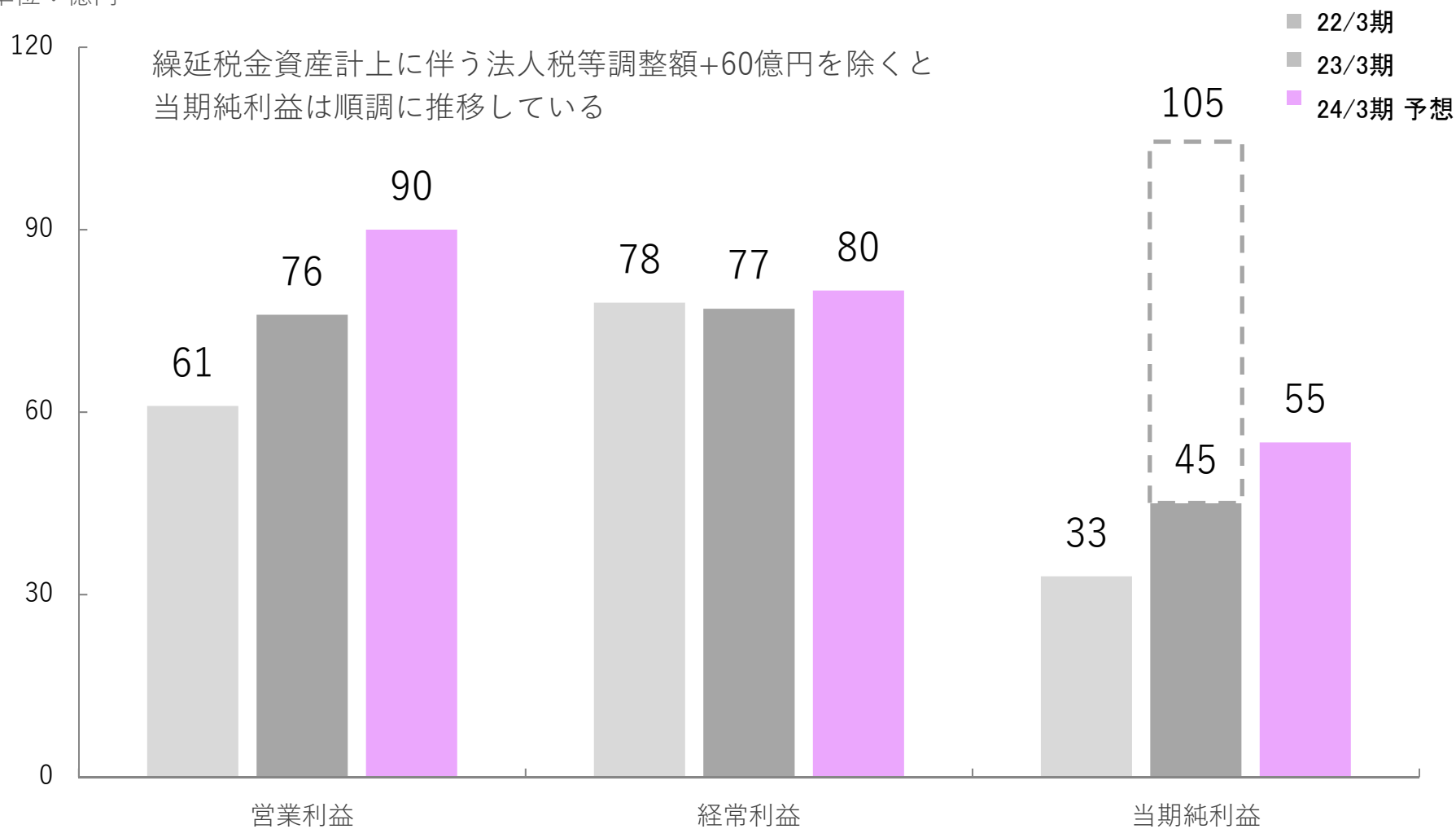
※繰延税金資産計上に伴う法人税等調整額+60億円を除いた実質増減 +10億円(+22.2%)

通期業績予想 支給品除く

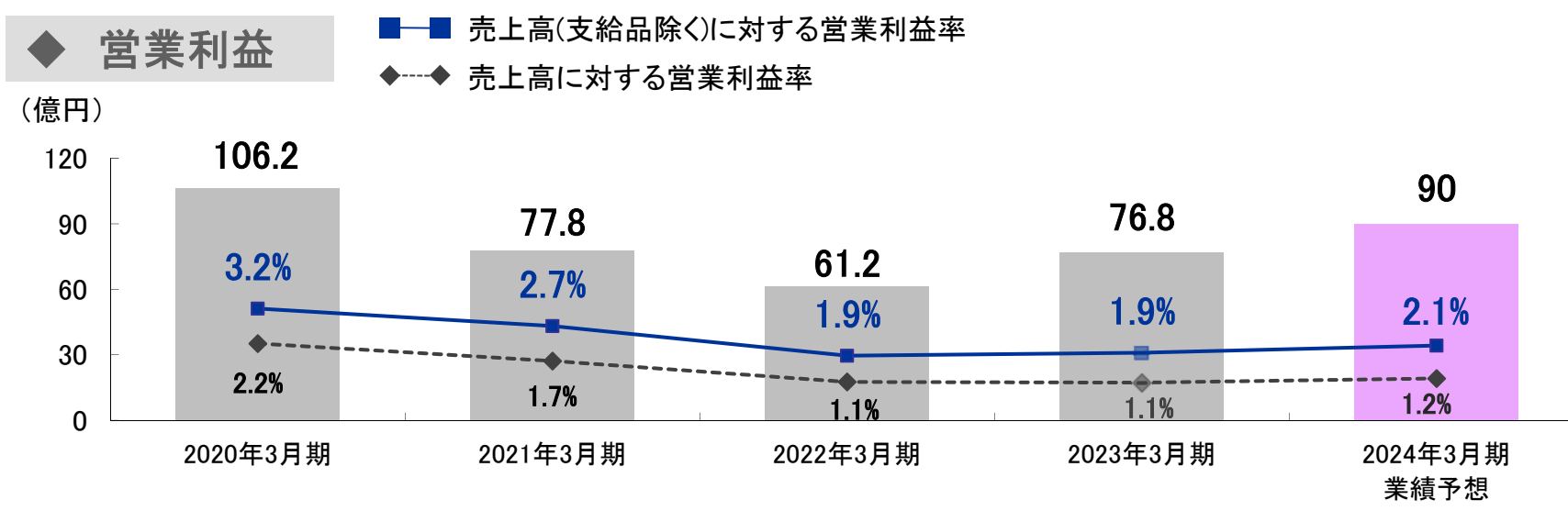
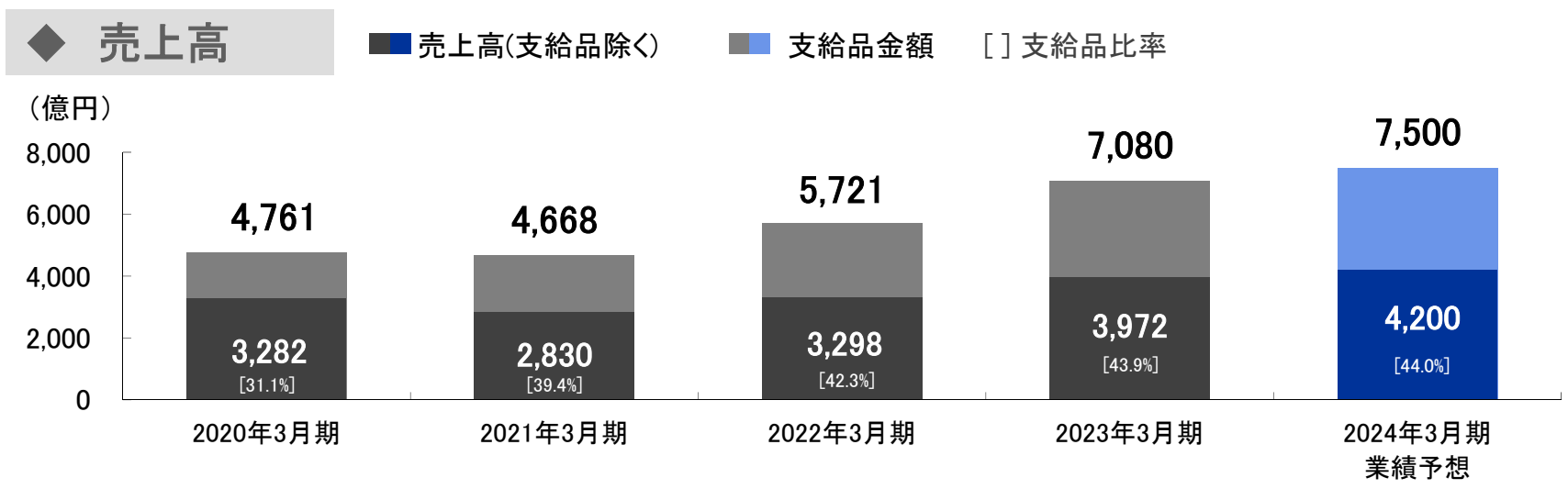
単位：億円

	2024年3月期 通期予想	2023年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高 [支給品除く]	4,200	3,972	+228	+5.7%
営業利益	90 (2.1%)	76 (1.9%)	+13	+17.2%
経常利益	80 (1.9%)	77 (2.0%)	+2	+3.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55 (1.3%)	105 (2.7%)	▲50	▲48.0%
() 内は売上高比率を表示				
為替レート (1ドル)	130.0 円	135.5 円		

単位：億円



売上高(支給品影響)と営業利益の推移



売上高(支給品影響)と営業利益の推移

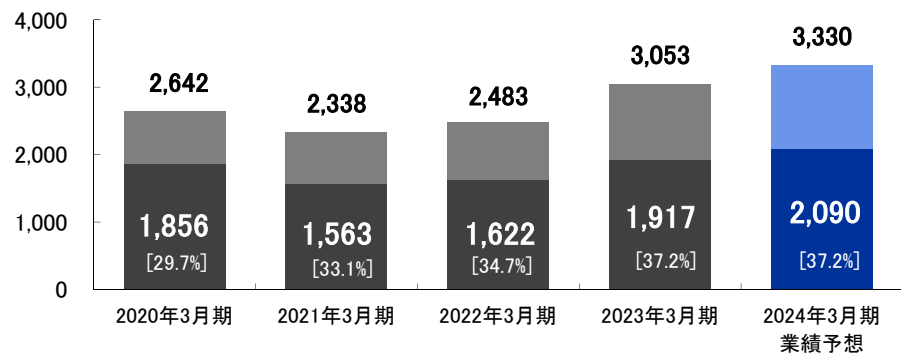
日本

北米

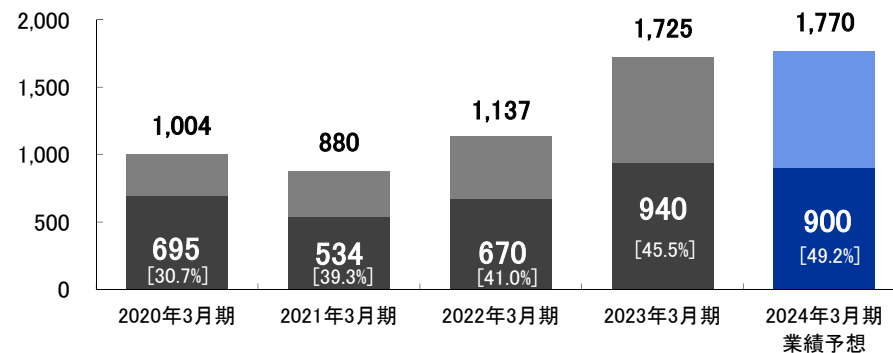
売上高

■ 売上高(支給品除く) ■ 支給品金額 [] 支給品比率

(億円)



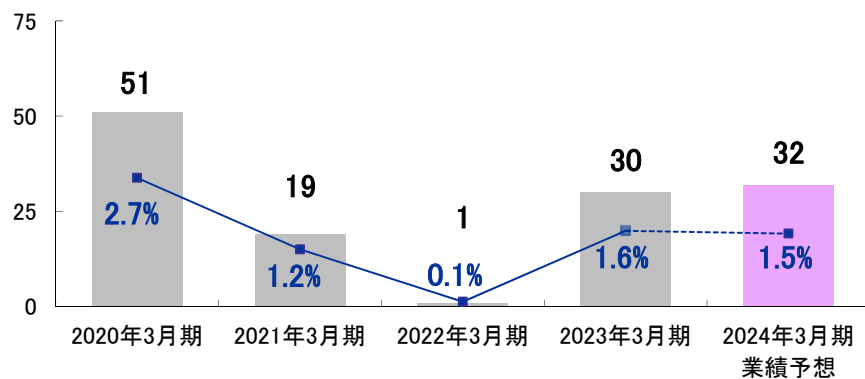
(億円)



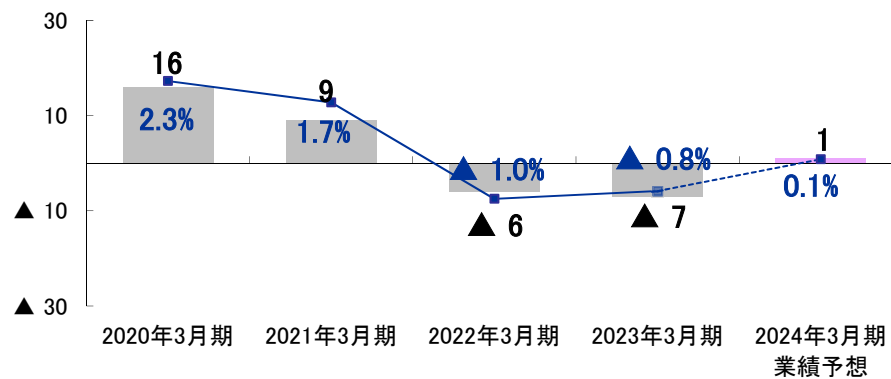
営業利益

■ 売上高(支給品除く)に対する営業利益率

(億円)



(億円)



売上高(支給品影響)と営業利益の推移

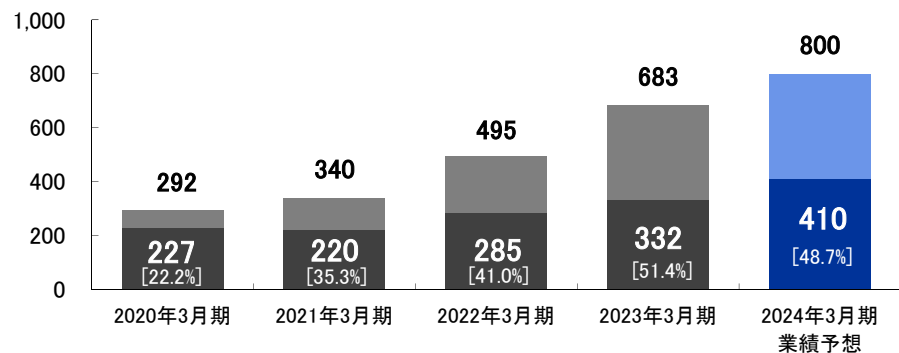
欧州

中国

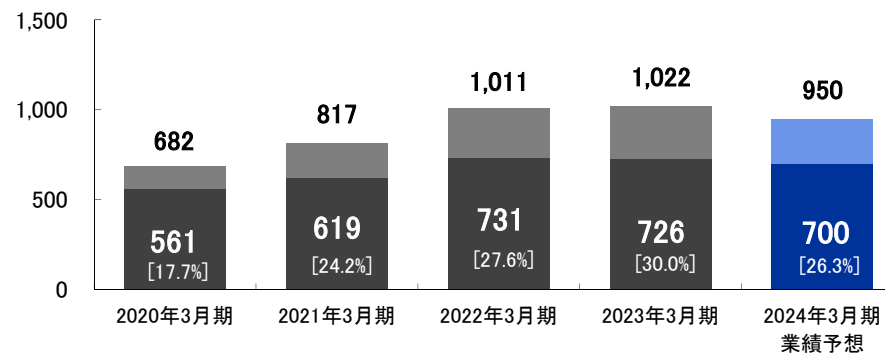
売上高

■ 売上高(支給品除く) ■ 支給品金額 [] 支給品比率

(億円)



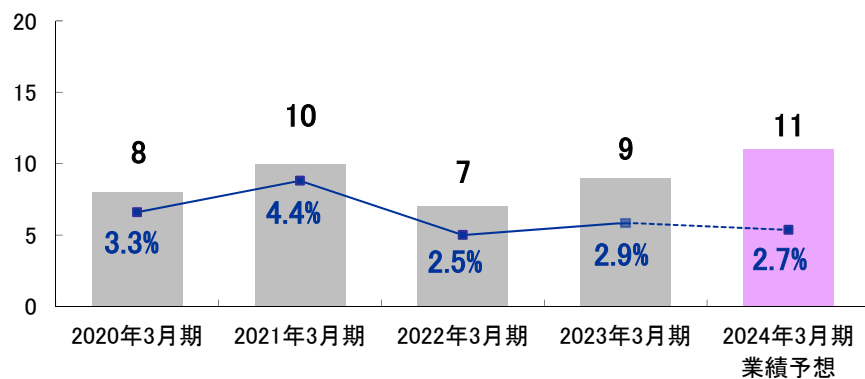
(億円)



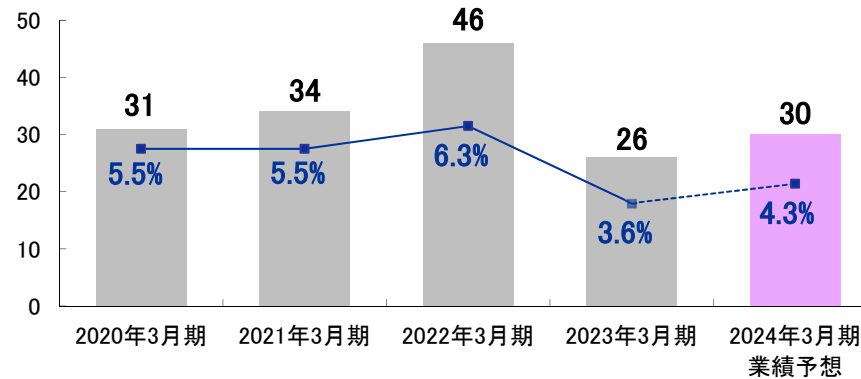
営業利益

■ 売上高(支給品除く)に対する営業利益率

(億円)



(億円)

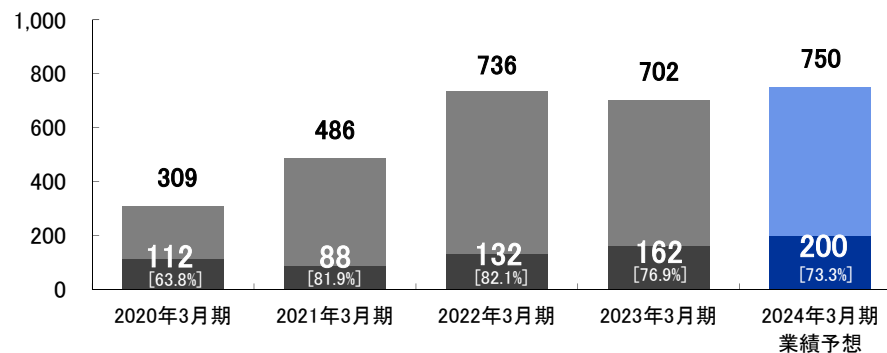


アジア

◆ 売上高

(億円)

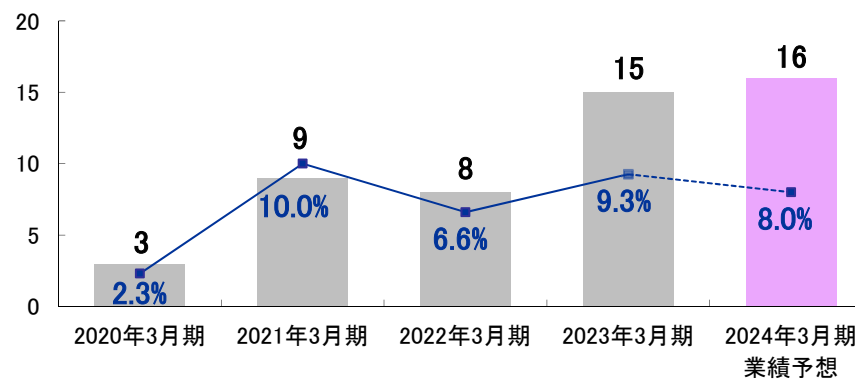
■ 売上高(支給品除く)
■ 支給品金額 [] 支給品比率



◆ 営業利益

(億円)

■ 売上高(支給品除く)に対する営業利益率



1. 2023年3月期 決算概況

2. 2024年3月期 通期業績予想


3. 配当、設備投資及び有利子負債

4. 中期経営計画の進捗状況等

配当方針『配当性向30%を目安に配当額の維持・向上に努める』

◆ 2023年3月期 期末配当の実施について

当期の経営成績や配当性向などを総合的に勘案した結果、下記としたい

- ・ 期末一株あたり配当 15 円 (配当予想比+5円増配)
 - ・ 配当総額 1,341 百万円 (前年895百万円)
 - ・ 当期純利益 105 億円
 - ・ 配当性向 12.7 %
- 
{

除く繰延税金資産積増額(60億円)	45 億円	29.8 %
-------------------	-------	--------

}

◆ 2024年3月期 配当予想

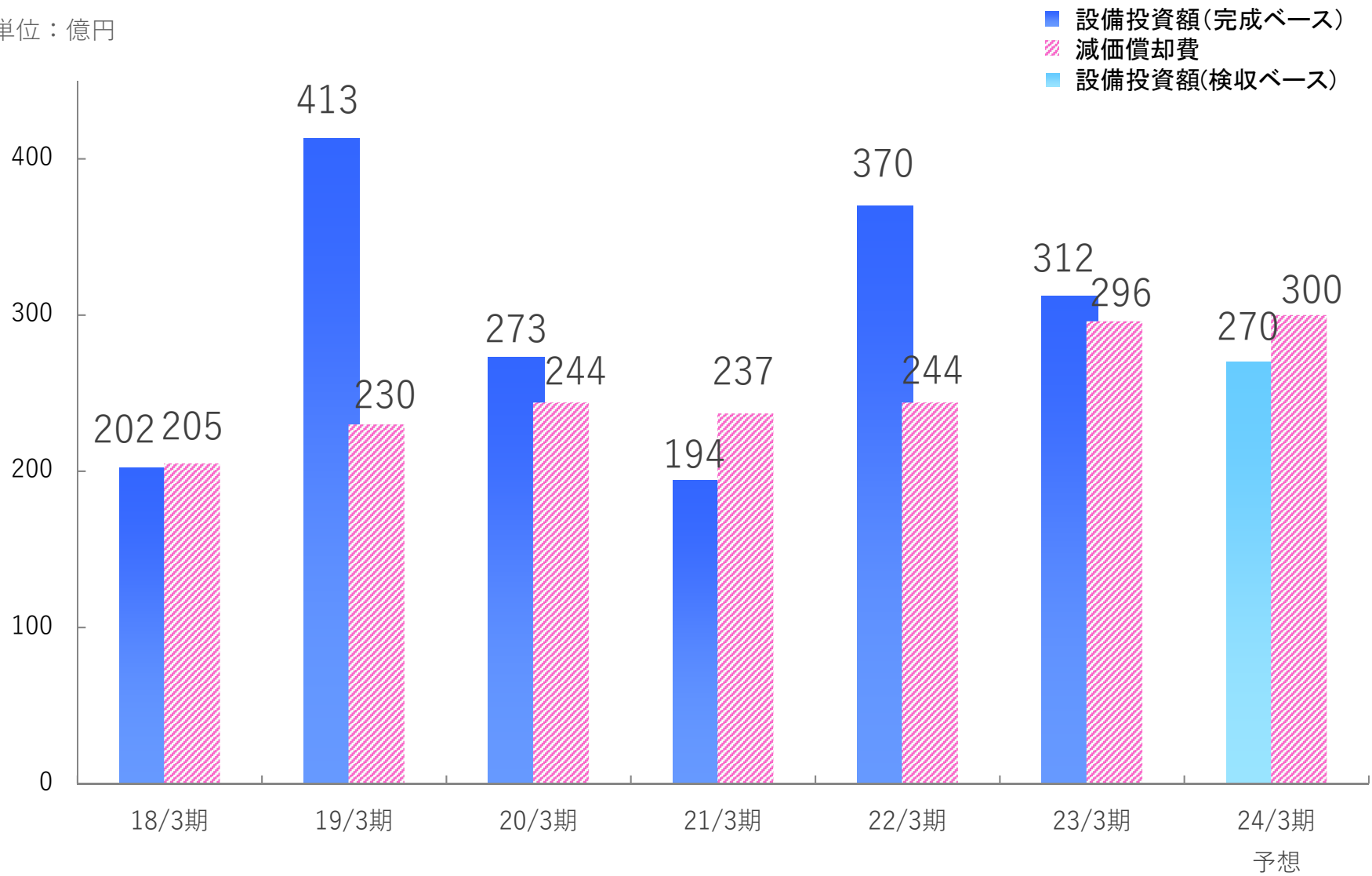
2024年3月期の配当予想は、
1株あたり18円(第2四半期末 9円、期末 9円)としたい

◆ 過去の配当の推移

	102期 (2016/3)	103期 (2017/3)	104期 (2018/3)	105期 (2019/3)	106期 (2020/3)	107期 (2021/3)	108期 (2022/3)	109期 (2023/3)	110期 (2024/3)
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
第2四半期末	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	9.00
期末	3.00	3.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	15.00	9.00
合計	3.00	3.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	15.00	18.00
配当性向	-	4.6%	8.3%	25.5%	14.1%	21.9%	27.1%	12.7%	29.3%

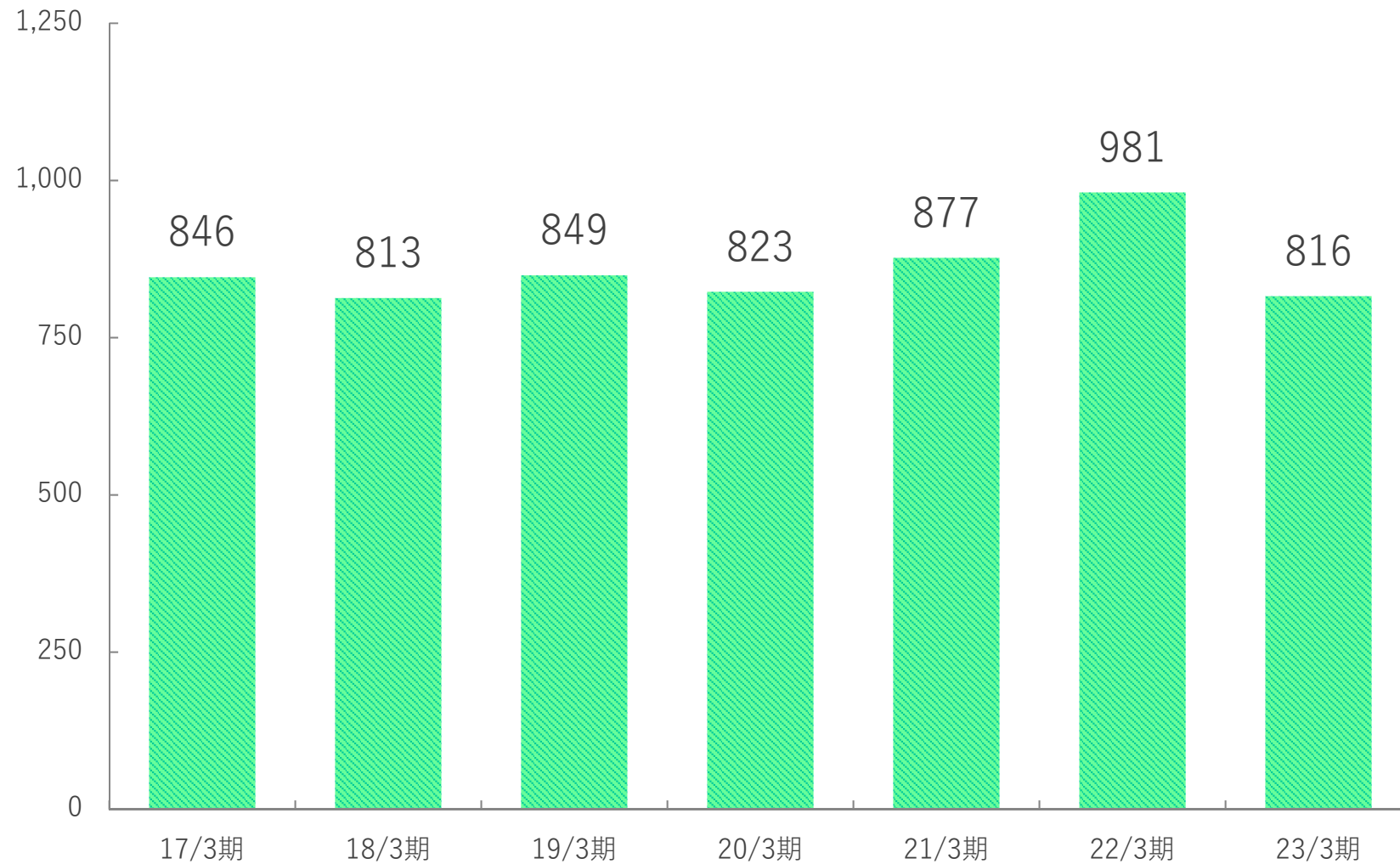
【参考資料】設備投資額と減価償却費の推移

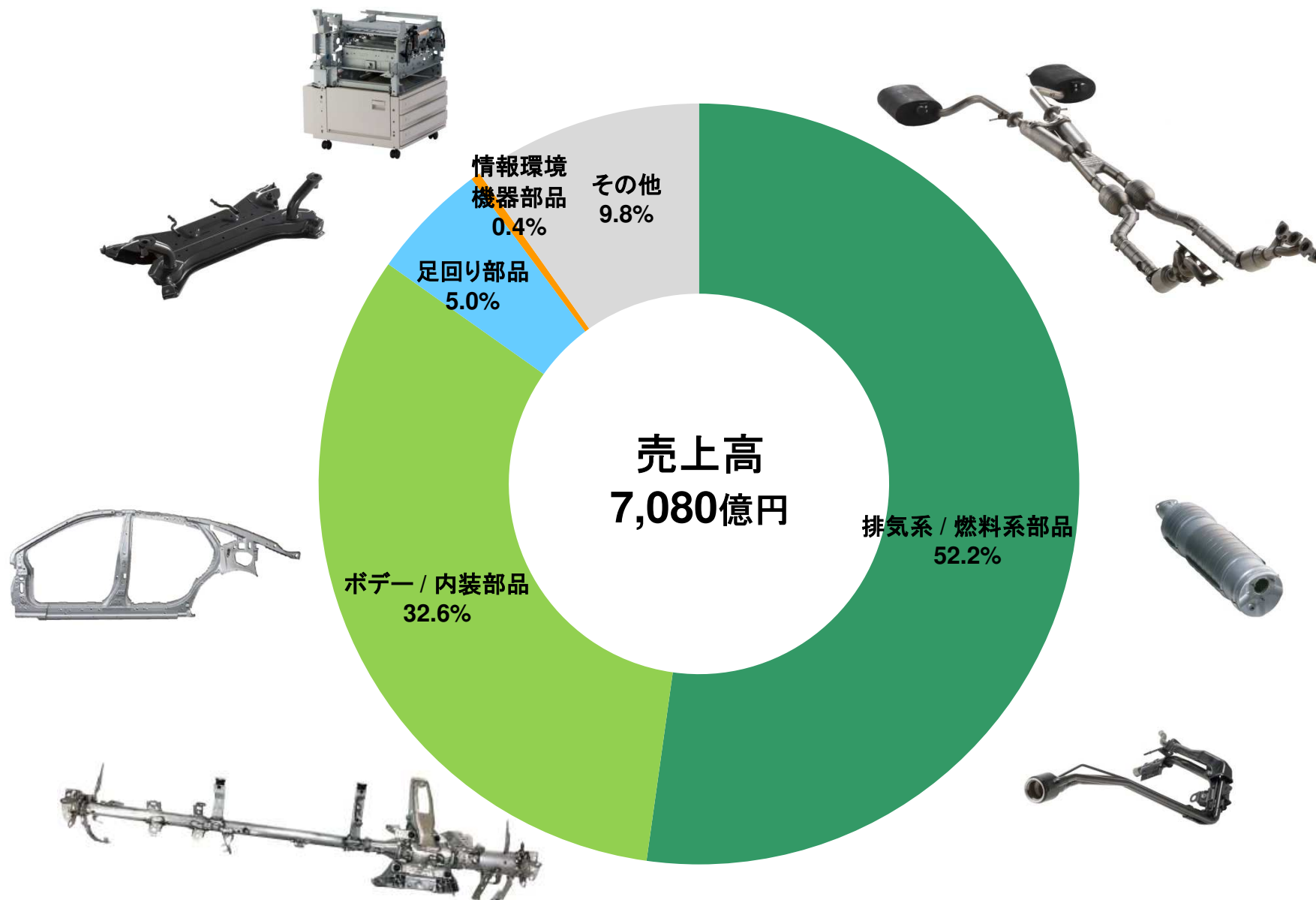
単位：億円

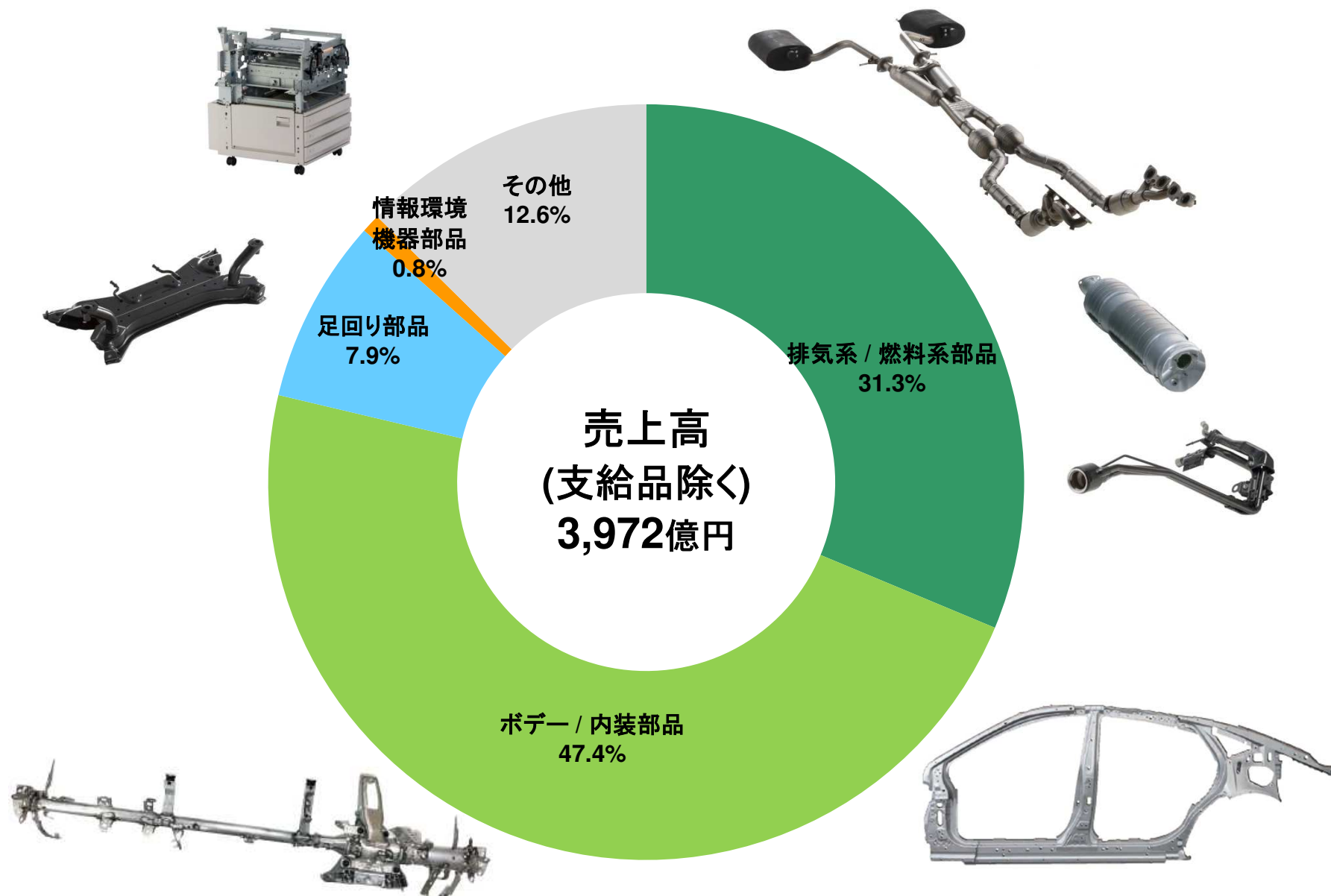


【参考資料】有利子負債残高の推移

単位：億円







1. 2023年3月期 決算概況

2. 2024年3月期 通期業績予想

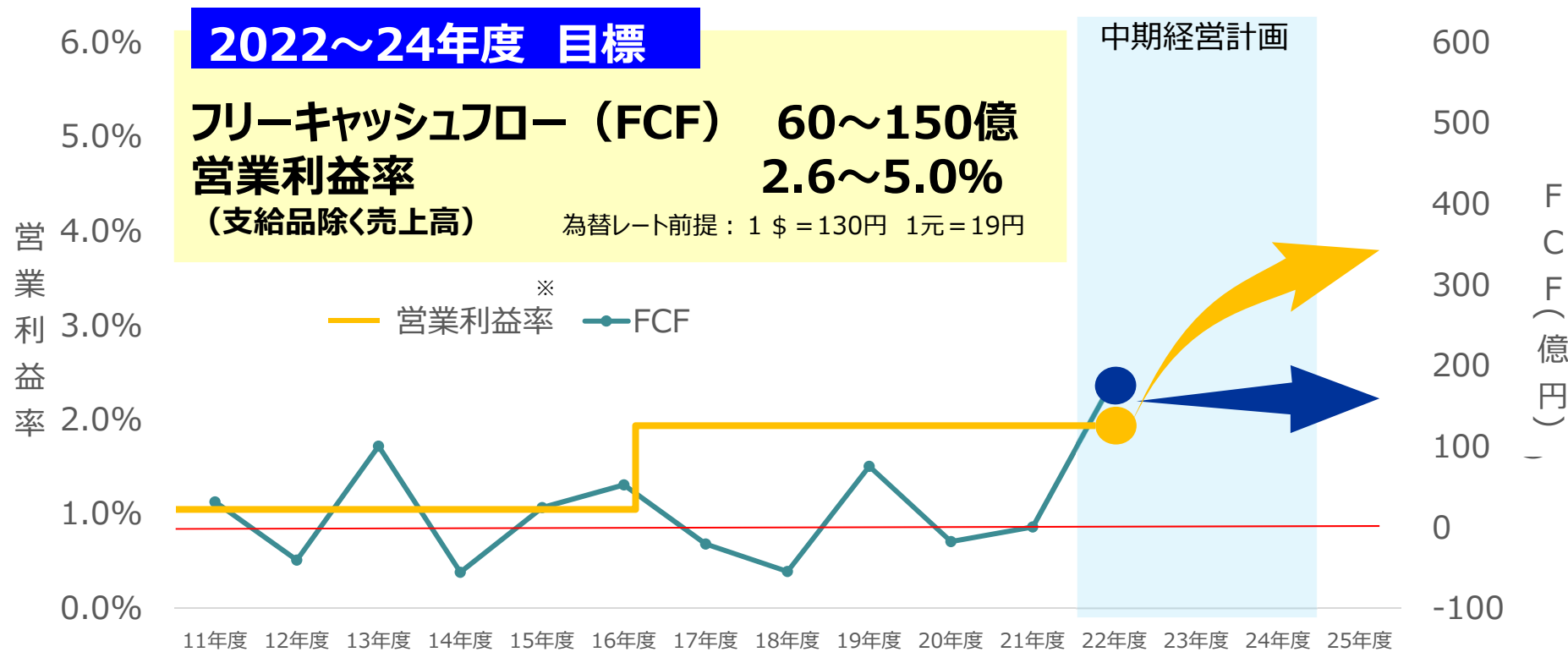
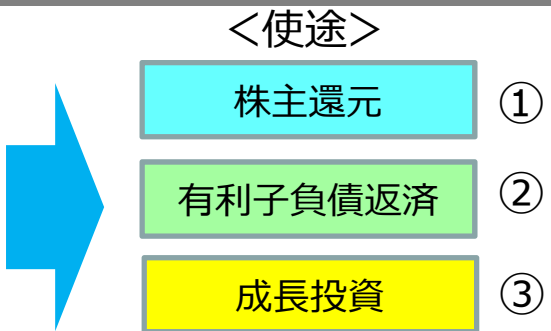
3. 配当、設備投資及び有利子負債

4. 中期経営計画の進捗状況等

財務体質の安定化

付加価値向上

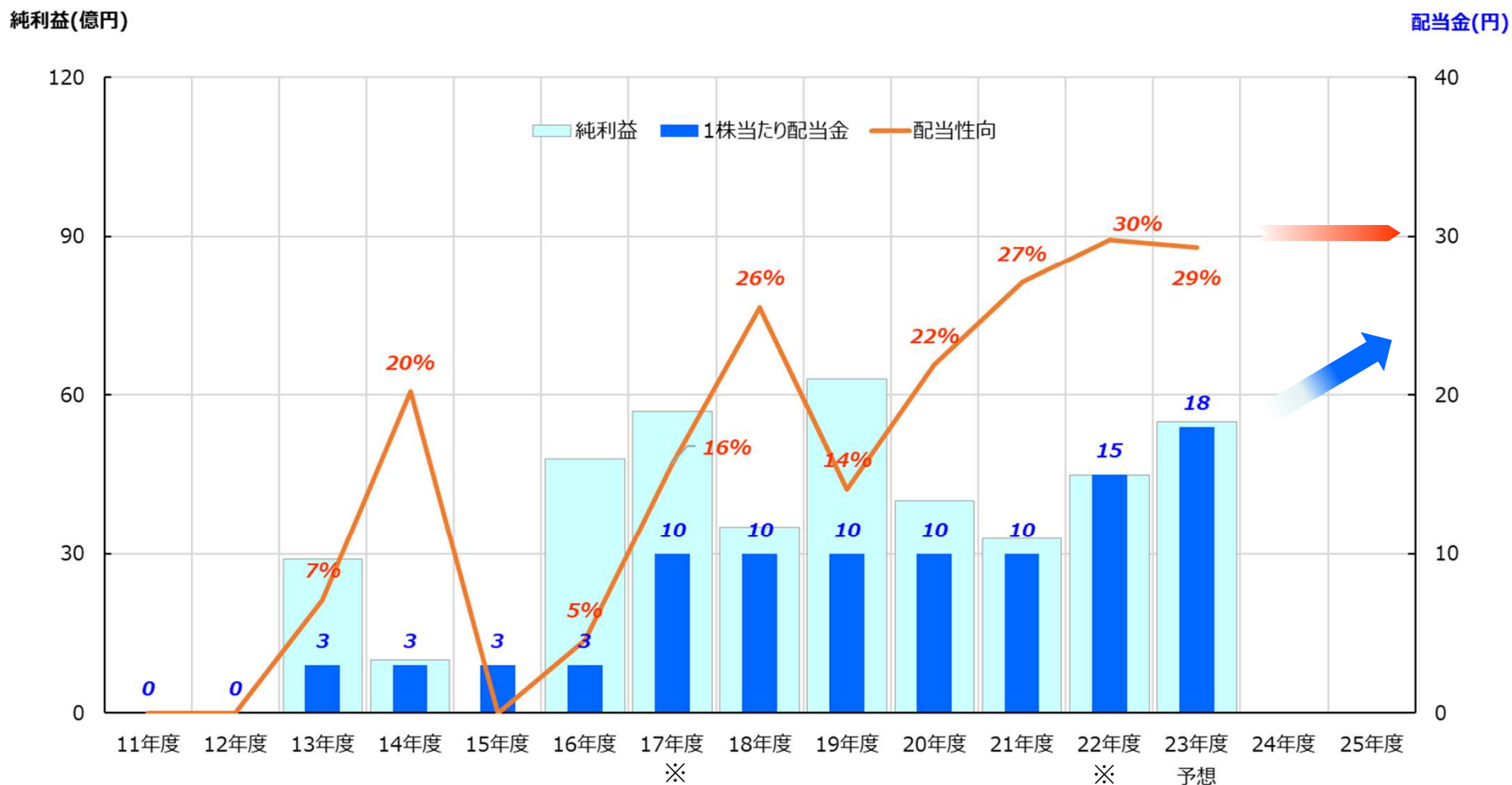
稼ぐ力を強化し、フリーキャッシュフローの増加を図る



※ 21年度までは支給品込み

①株主還元

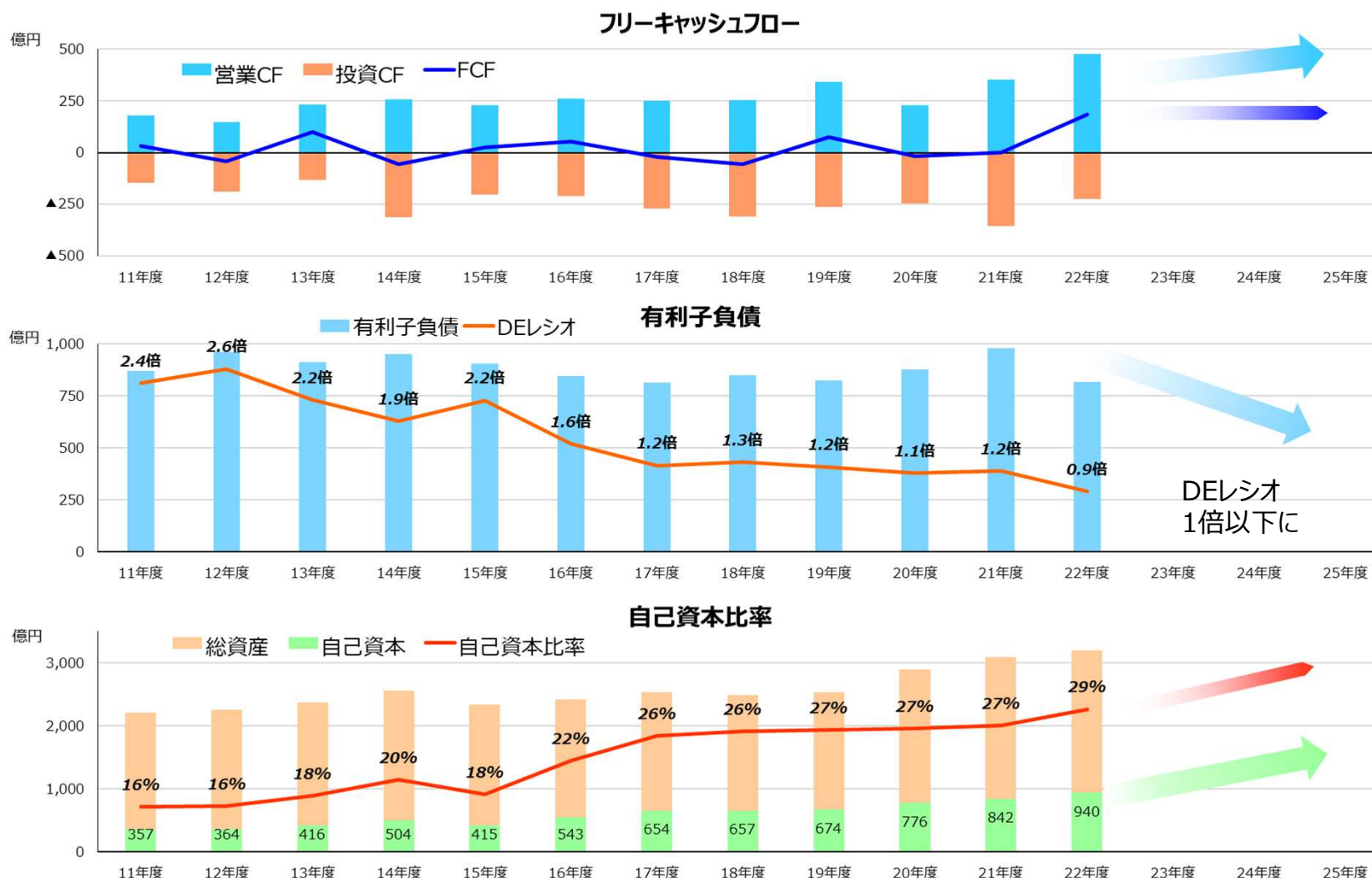
➤ 配当性向は30%程度を目安に配当額を維持・向上



※繰延税金資産の計上による一過性の純利益の増大影響を排除したもの 17年度 50億円 22年度 60億円

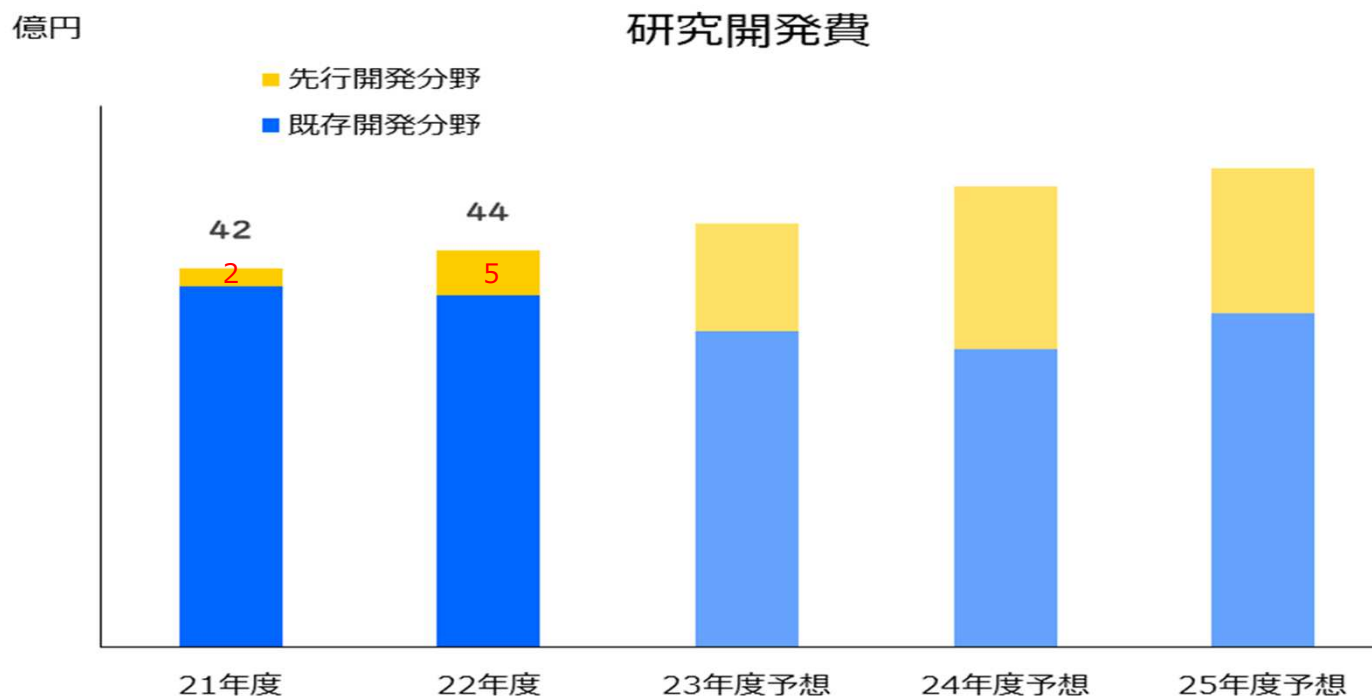
②有利子負債返済

➤ フリーキャッシュフローを増大させて有利子負債の返済に充当



③成長投資

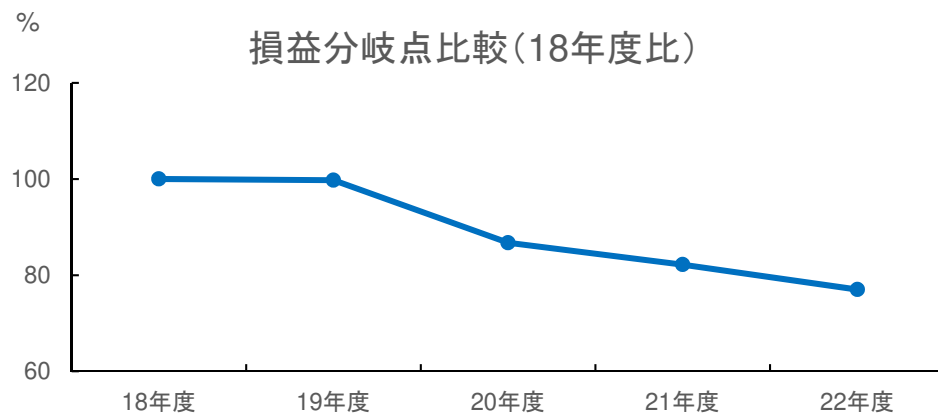
➤ 今後は先行開発分野の投資を増強（含む、既存→先行へのシフト）



開発対象	開発領域
ボデー部品	構造解析、異種溶接、異形造管等
先行開発	電動車（バッテリー）関連製品、除草ロボット等
新規事業	カーボンニュートラル技術、CO2回収技術等

損益分岐点の改善 (日本)

[フタバ単体 (部品事業)]

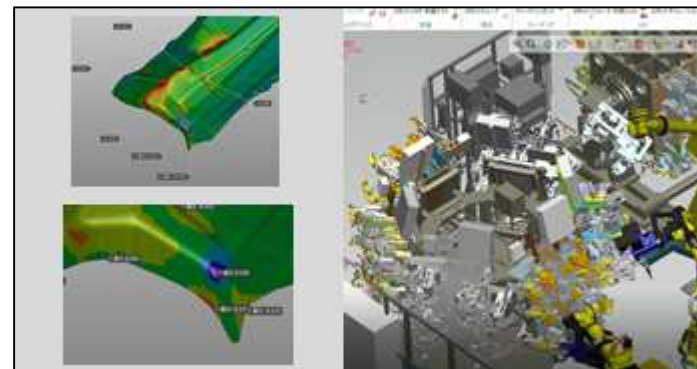


②ベストプラクティス活動



業界ベストを出来高、品質で追及し素早くグローバルへ展開

①開発プロセス変革



設計支援AI、生産工程シミュレーション等により開発リードタイム短縮

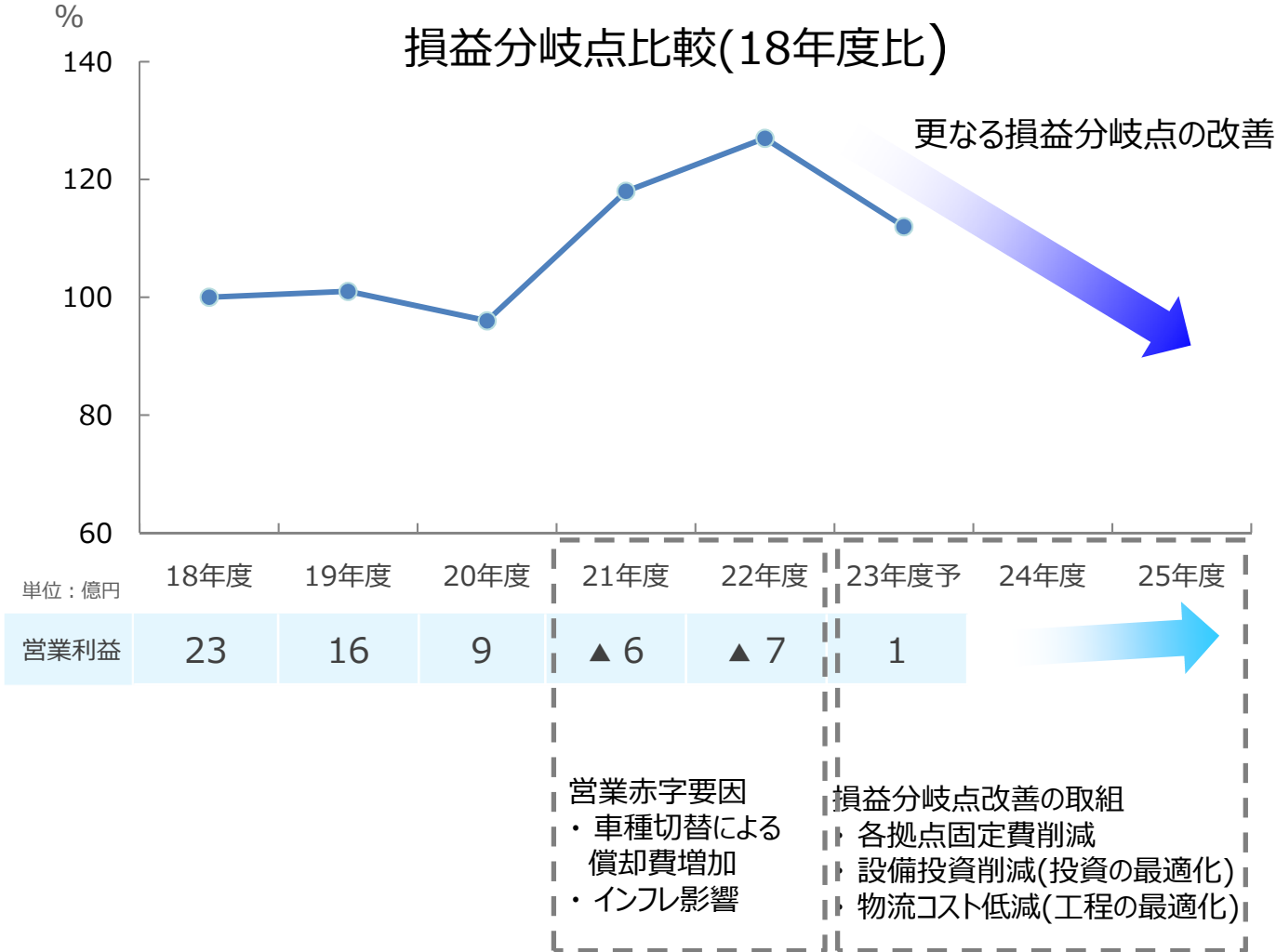
③生産管理業務ワンロケーション化



デジタルによる遠隔管理で間接工数削減

日本の活動をグローバル展開し、営業利益拡大を目指す

損益分岐点の改善 (北米)



改善活動報告



物流改善 (AGV)

ベストプラクティス活動等の展開、更なる損益分岐点の改善を目指す

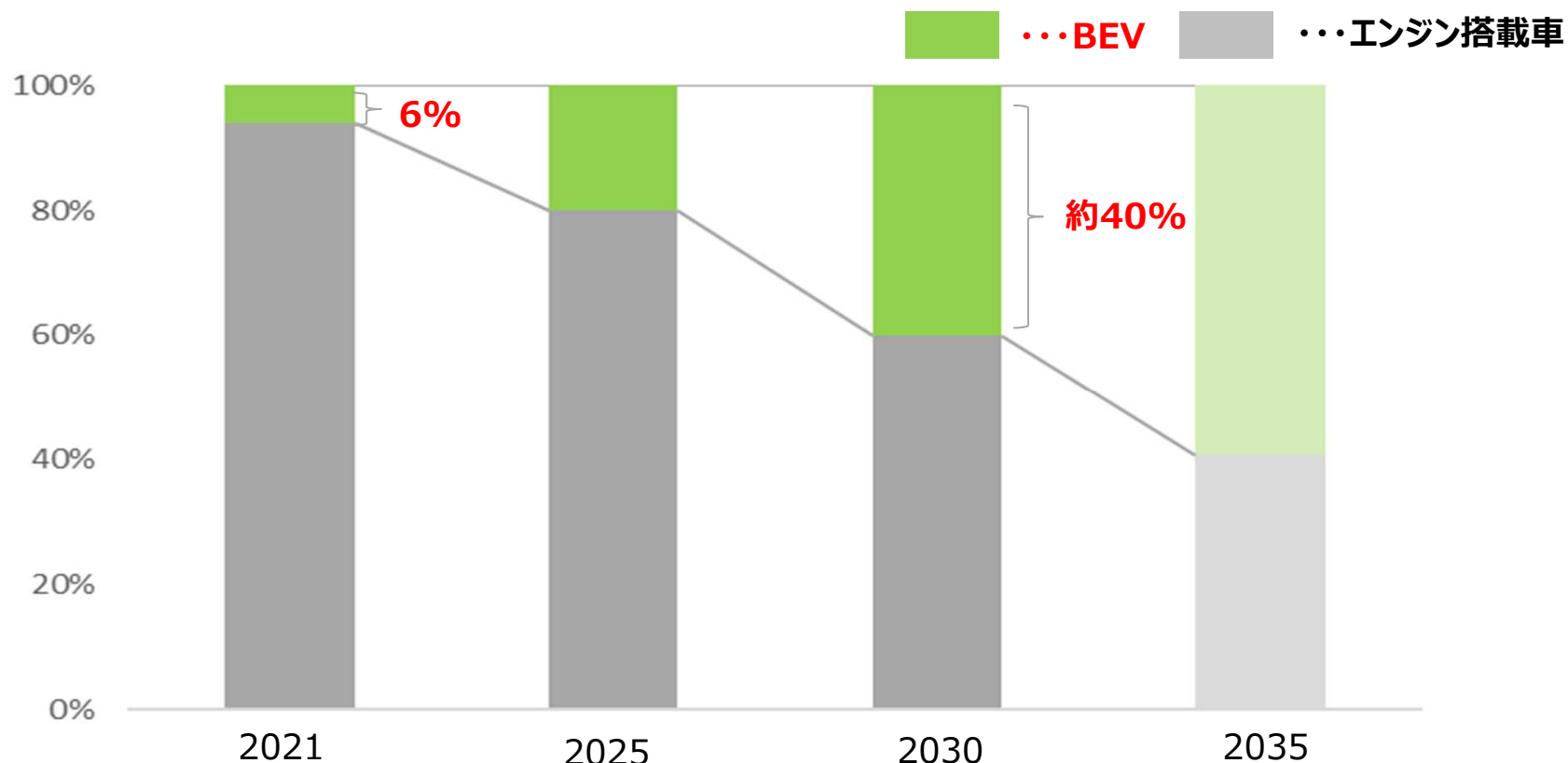
財務体質の安定化

付加価値向上

1) 売上拡大

<世界新車販売台数予測>

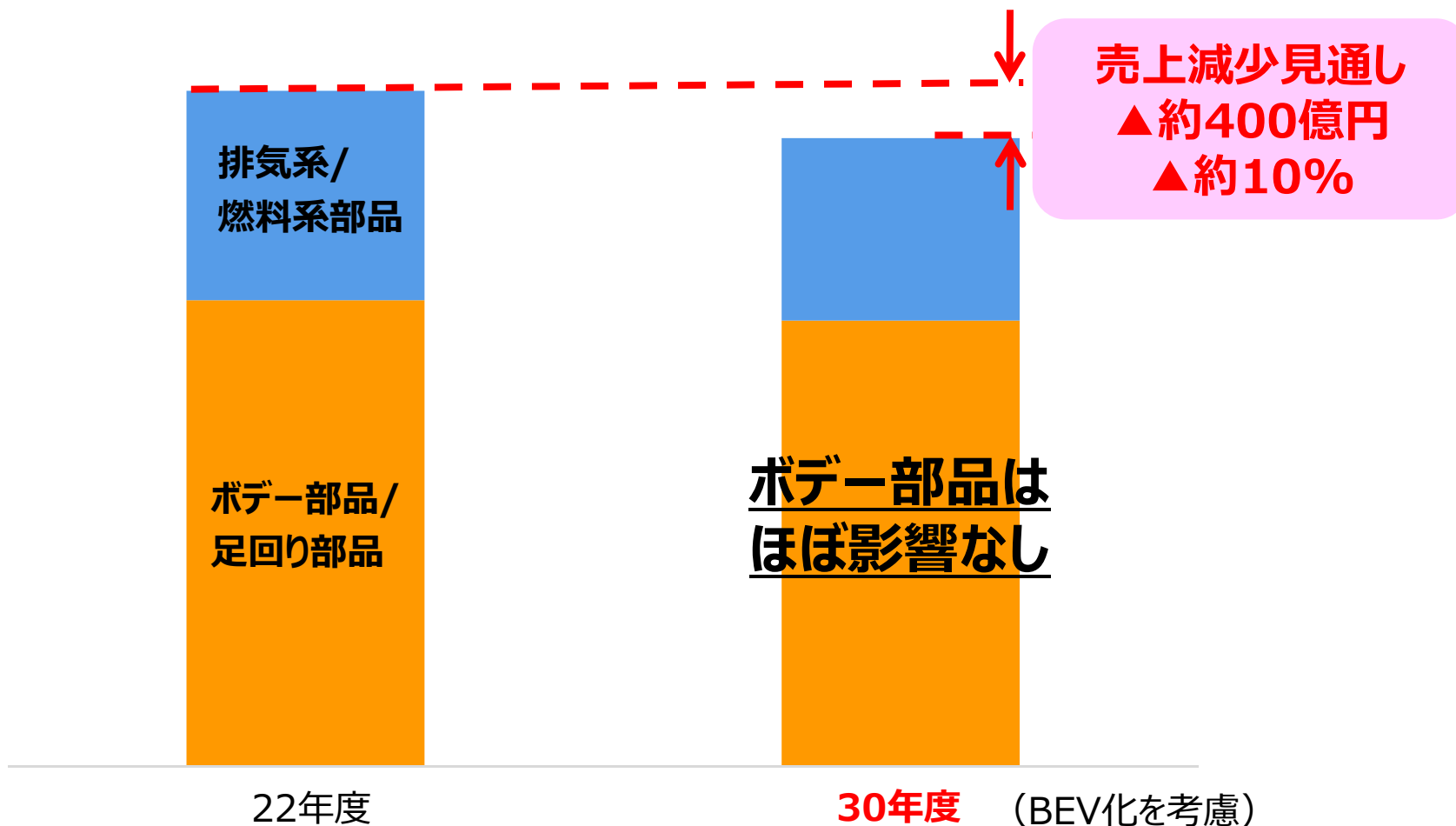
出所: ポストン コンサルティング グループ分析
「Electric Cars Are Finding Their Next Gear (2022年6月9日)」
よりフタバ産業が作成



エンジン搭載車が減少しBEVが急速に拡大

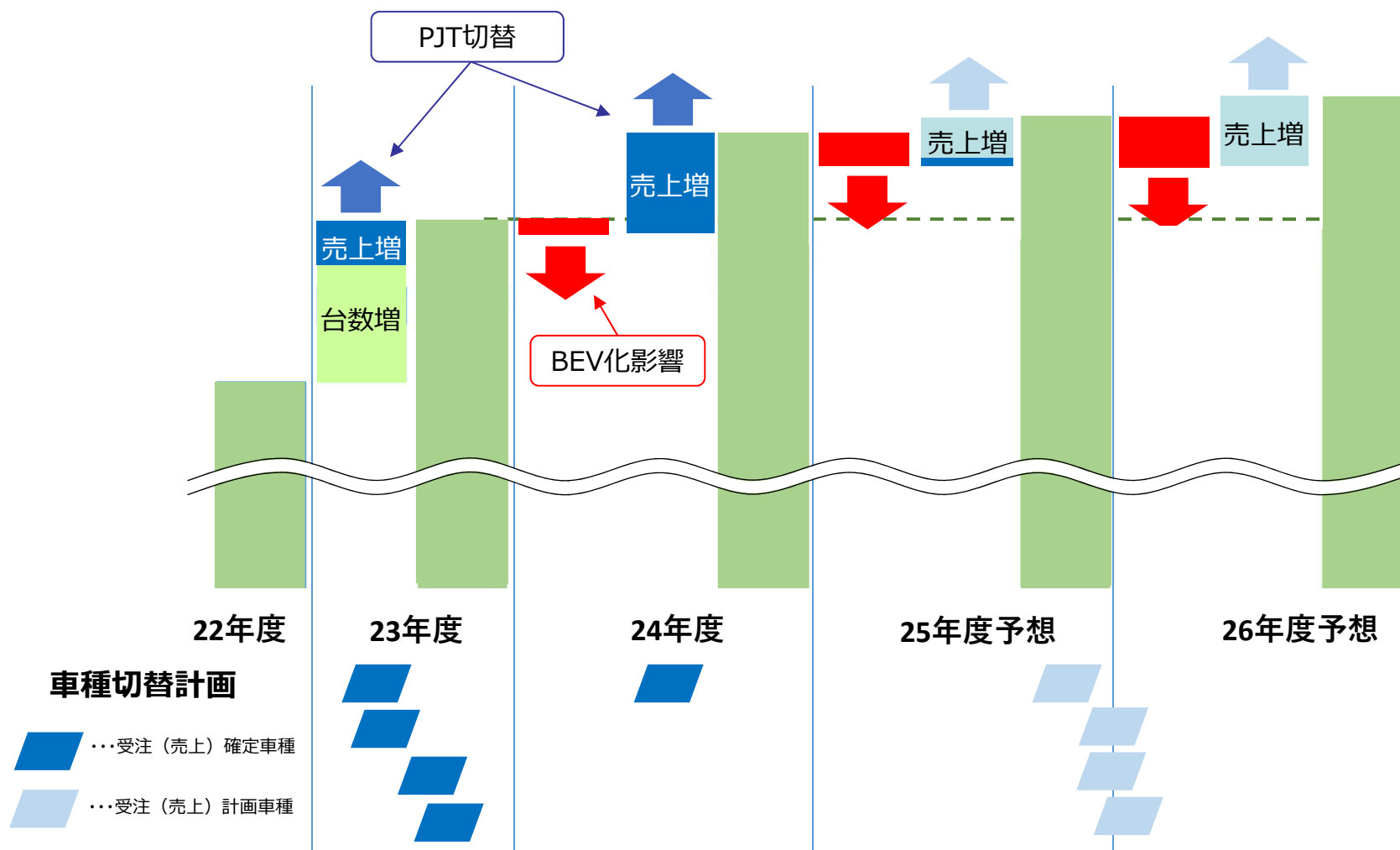
1) 売上拡大

フタバ連結の売上影響予測 (自動車関連部品・支給品除く)

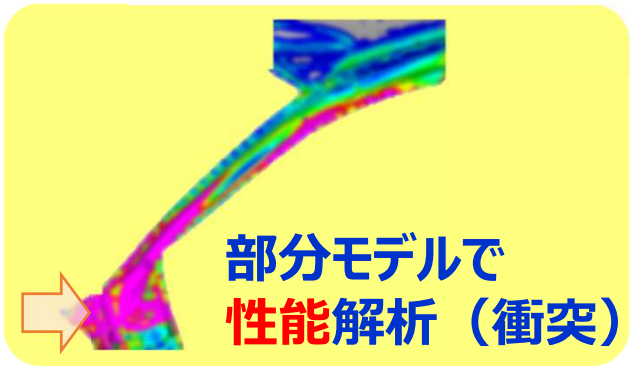
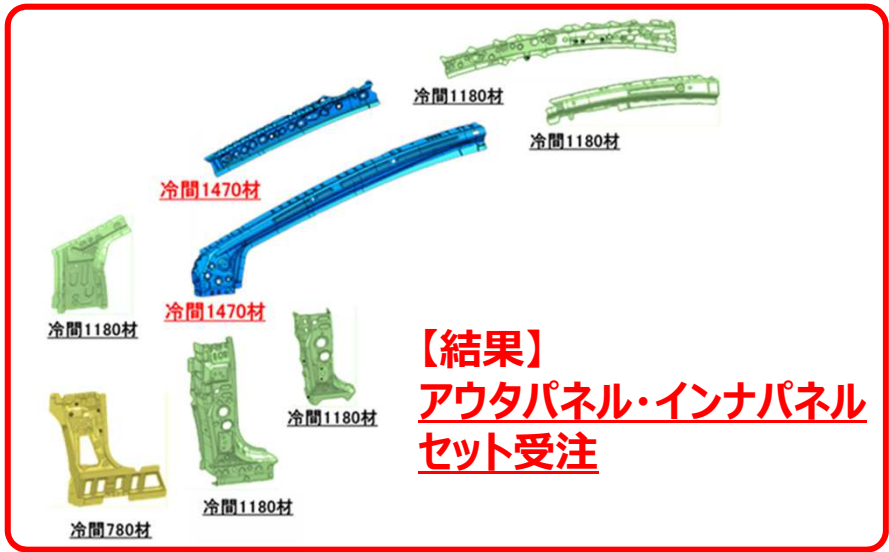
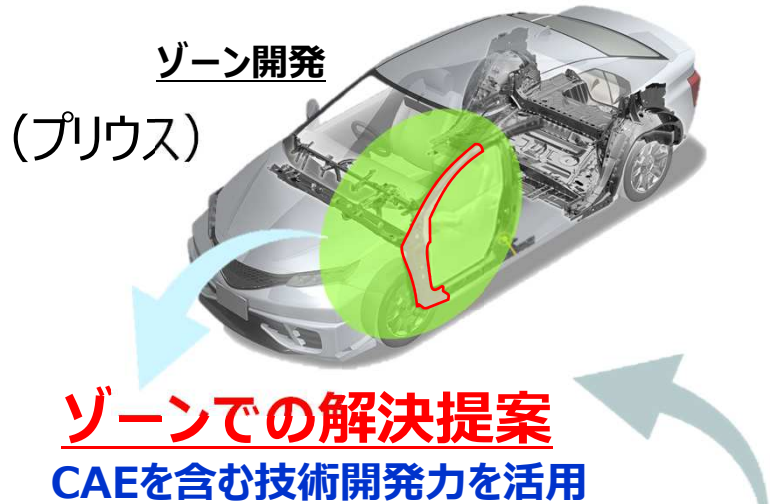


1) 売上拡大

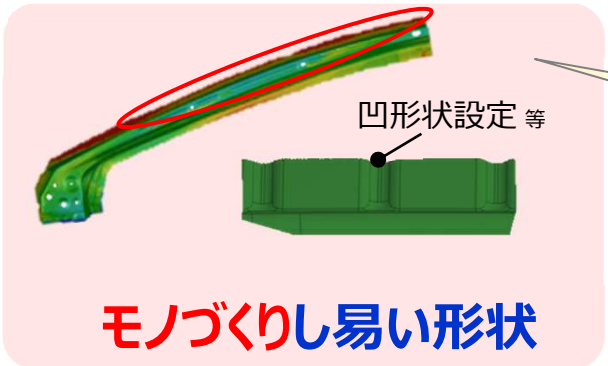
2023年度以降の各切替プロジェクトで受注売上増に取り組み中



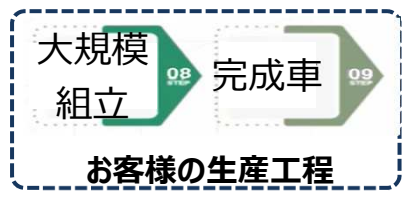
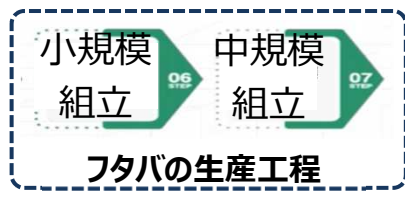
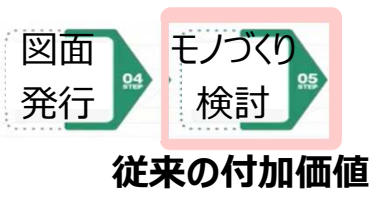
1) 売上拡大(ボデー分野拡大の例)



両立
+

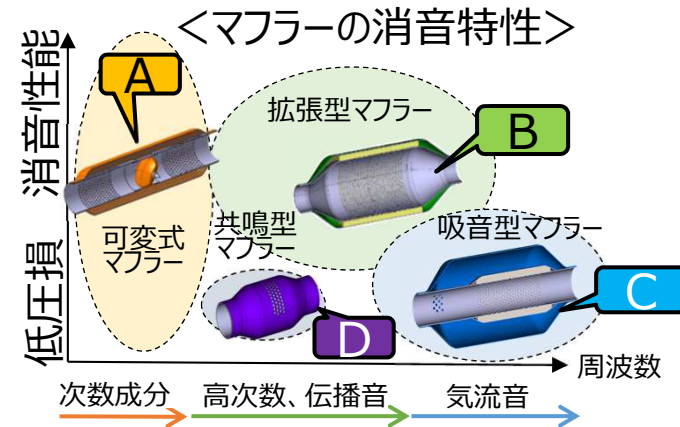
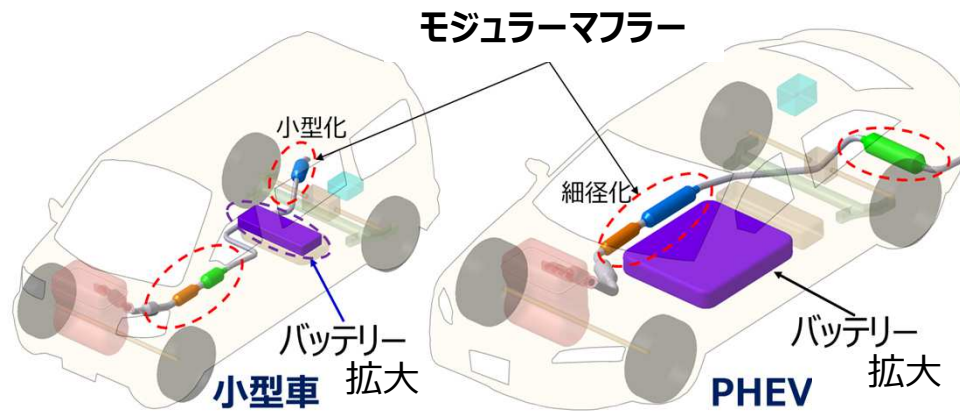


フタバ独自の加工技術で
冷間1470MPa量産
トヨタ自動車(株)様より
「プロジェクト表彰 技術の部」受賞



1) 売上拡大(モジュールマフラーの例)

電動化が進む中、「投資ミニマム」・「工数ミニマム」を前提に新開発の『モジュールマフラー』を提案



モジュールマフラー構想・効果目標

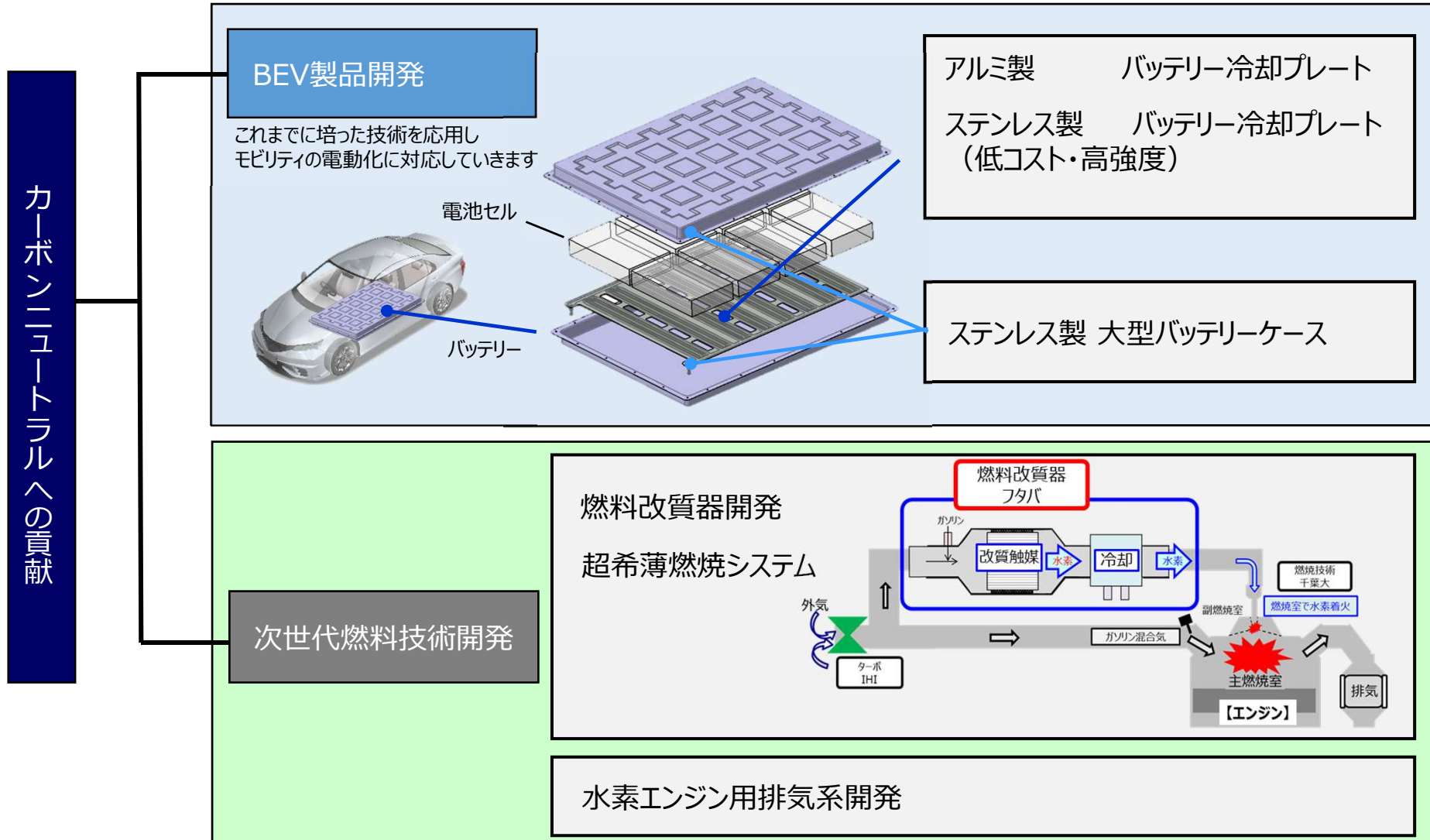
マフラー構造を分割して小型化・細径化

	小型車	中型車	PHEV
モジュールマフラー構想			
効果目標	<p>質量[kg] ▲15%</p> <p>マフラー容量[L] ▲50%</p>	<p>質量[kg] ▲25%</p> <p>マフラー容量[L] ▲50%</p>	<p>質量[kg] ▲15%</p> <p>マフラー容量[L] ▲40%</p>

15%以上の軽量化、40%以上のマフラー容量低減により、シェア向上を狙う

1) 売上拡大(EV、FCVの例)

BEV向け製品・加工技術開発 (バッテリー性能に貢献する製品開発)
多様な燃料に対応する新たな技術開発

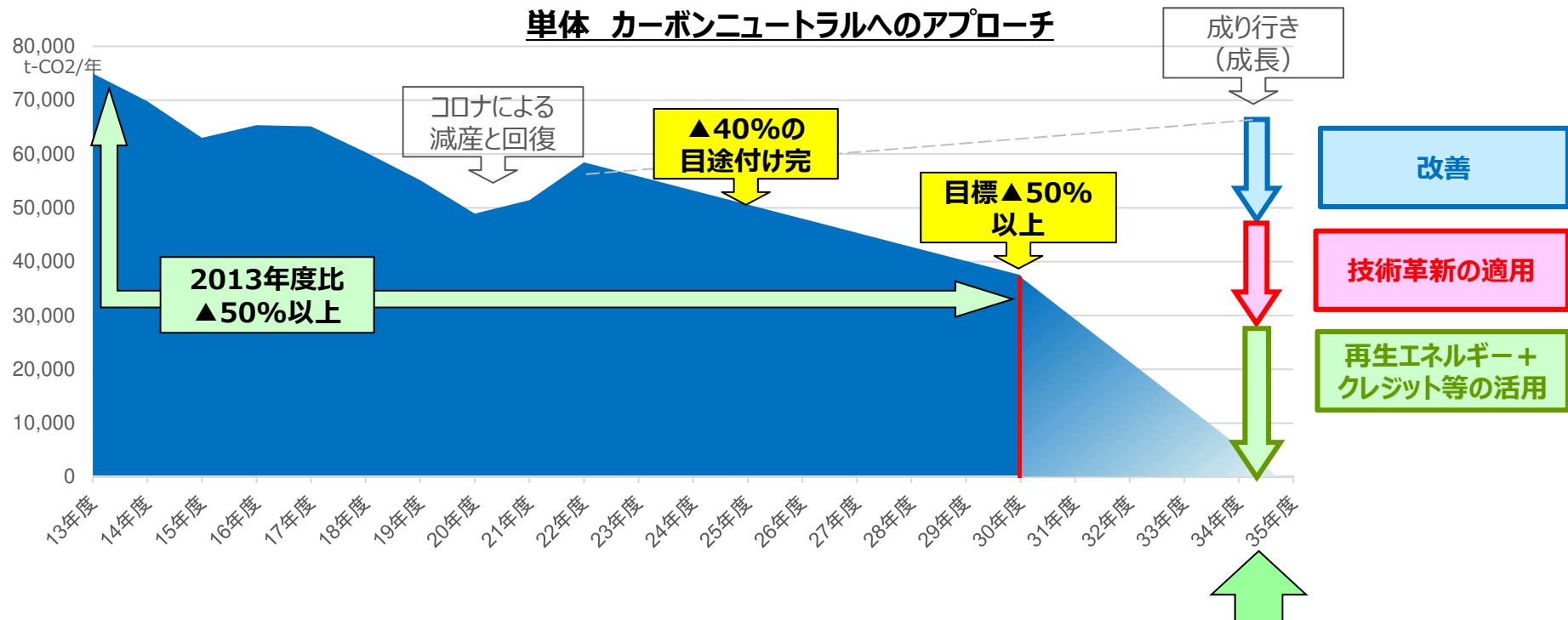


2) カーボンニュートラル

工場のCO2排出量削減目標

単体 2030年度(2013年度比) 50%以上削減

国内外子会社・国内仕入先 毎年3%削減(単体と同レベル)に取り組む



2035年 国内工場のカーボンニュートラル達成にチャレンジ

3) 人的資本強化

戦略達成に向けた適材適所配置（全員活躍）の実現

全員活躍…一人ひとりの強み×働きがい×チャレンジ

人材
マネジメント

中長期的に必要な多様な人材の
獲得・育成・活用

- ▶ 具体的な取り組み
 - ・DX人材の育成
 - ・海外トレーニー制度
 - ・マネジメント教育
 - ・グローバル研鑽会
 - ・管理職への若手抜擢
 - ・ジョブ型雇用

人事制度改革

「全員活躍」に向けた
基盤の構築

- ▶ 具体的な取り組み
 - ・女性のキャリア形成支援
 - ・DE&Iマインドセット研修
 - ・エンゲージメント調査と向上施策
 - ・オフィス環境の改善・在宅勤務
 - ・公募、社内副業、社内インターンシップ
 - ・役割等級制度

※青字 実施中の施策、赤字 検討中の施策

- 3つの提供価値

「環境」 自然環境への負荷を低減する排気系部品

「安心」 人を危険から守り、安心できるボデー・内装部品

「豊かな生活」 生活品質を高める製品・サービス

アグリーフ、新規事業（社会ソリューション創造室）

- 多くのステークホルダーの皆様へ価値提供、
情報発信を増やしていきます

フタバに関するステークホルダー

社員
家族

お客様

仕入先

株主

投資家

地域
社会

エンド
ユーザー

FUTABA

フタバ産業株式会社

<https://www.futabasangyo.com/>

【注意事項】

本資料に記載される当社(連結子会社を含む)の見通し等は、当社が現在入手している情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従って、これらの業績予想等のみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるよう お願い申し上げます。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社、連結子会社および持分法適用会社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

本資料に掲載のあらゆる情報はフタバ産業株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに、複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、一部の数値を億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している 原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。